

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅰ	単位(授業時間/時間数)	1(14/30)
開講年次	2年次	開講時期	通年	授業回数	7回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	—			—	

授業のねらい

未成熟な子どもの器官や機能は、発達途上にあるがゆえに発症し得る場合も少なくないこと、症状の程度も発達期により重篤になりやすいということを理解する。そして、子どもは自らことばでうまく訴えることができない存在であることを想起し、愛護的ケアの重要性を実感し、小児看護学Ⅱへ繋げたい。

授業目標

病気の全体像を概観し、体の構造・働きと病気との関係を学び、発達期の特性から症状・徴候を捉える。

授業概要

1. 母子感染・未熟児
2. 先天性の障がい 発達の障がい
3. 消化吸収機能の障がい
4. 内分泌機能の障がい
5. 排泄機能の障がい
6. 呼吸機能の障がい
7. 防衛調整機能の障がい
8. 循環機能の障がい
9. 造血機能の障がい
10. 悪性新生物
11. 精神機能の障がい
12. 運動・感覚機能の障がい
13. 事故と外傷・虐待

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論(医学書院)

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト(50点)

試験時間は時間数に含む。

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅰ	単位(授業時間/時間数)	1(14/30)
開講年次	2年次	開講時期	通年	授業回数	7回
担当講師名	専任教員	講師所属	福岡水巻看護助産学校		
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

様々な状況にある小児と家族への看護について理解する。状況に応じた小児と家族への援助、小児期に発生頻度の高い症状の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への関わり方について考えさせたい。

授業目標

事例を通して、小児各期の特徴を踏まえた上で、健康問題から受ける影響を理解し、看護への方法を学ぶ。小児期特有の特徴を理解し様々な発達段階の小児とその家族に対して、健康問題への取り組みと健康な成長発達のための援助や、母子関係の重要性から家族を含めた援助について理解する。そして、健康障害による成長発達への影響を最小限にし、健康な成長発達が遂げられるよう、臨床の場で看護師の役割が実践できる能力を養う。

授業概要

1. 小児における疾病の経過と看護
 - 1) 慢性期にある小児と家族の看護
 - ・気管支喘息の子どもの看護
 - ・Ⅰ型糖尿病の子どもの看護
 - 2) 急性期にある小児と家族の看護
 - ・川崎病の子どもの看護
 - ・ネフローゼ症候群の子どもの看護
 - 3) 終末期の小児と家族の看護
 - ・白血病の子どもの看護

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院)
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論(医学書院)

参考図書

評価方法

課題・グループワーク参加度・レポートおよび終講試験(客観時テスト)の総合評価(50点)
 試験時間は時間数に含む。